R7 楡木小学校　学校通信
No.３６
なりたい自分になる！
In 楡木サラダボウル
令和８年１月１６日
文責　余宮

寒い日が続いています。インフルエンザなどの流行も心配です。ご家庭での対策もどうぞよろしくお願いします。

やっぱりあいさつが大切

３学期初日。６年生のかなさん（仮名）が勢いよく走ってきました。そして、開口一番、

「明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いします！」

と、大きな声であいさつをしてくれました。続いて、友達がみんな笑顔でおなじくあいさつを。さらに、昇降口では１年生のみなさん（仮名）も、新年のあいさつ。う～ん、気持ちがいいね。この後も、続々とあいさつをしてくれる子どもたちが。ちゃっかり、新年のあいさつに、「お年玉ちょうだい！！」とおねだりも付け加えたり、「今年最初だから、握手」と温かい触れ合いがあったり。

本当に気持ちのよい一日が始まりました。

あいさつって、すごい力があるんだな、と改めて感じる３学期のスタートとなりました。

ちょっと調べてみると、生活目標に「あいさつ」がない学校はないようです。それほど重要な「あいさつ」は、なぜそんなに重要なのでしょうか。今号は、そんな「あいさつ」の意味について深堀してみたいと思います。

カウンセリングという概念を創り上げたアメリカの心理学者カール・ロジャーズ氏（1902～1987）は、カウンセラーには次の３つの条件が必要だと述べます。

「共感的理解」「無条件の肯定的関心」「自己一致」

専門家ではない私の説明では心もとないのですが、「共感的理解」とは、相手の立場に立って、寄り添いながら相手の心情理解に努めること。「無条件の肯定的関心」とは、自分の好き嫌いや善悪の判断などを基準にせず、常に肯定的な関心をもって相手の話を聴くこと。「自己一致」とは、独りよがりな理解にならないように、相手の意図と自分の理解をすり合わせながら正しく対話の内容を理解すること。この３つが「傾聴」のためには不可欠だ、とロジャーズは説いています。

その中でも、「無条件の肯定的関心」は大変重要です。その意味を理解することは大変簡単な概念ですが、その実践となると・・・。だって、自分の好き嫌いや善悪の判断を基準にしないなんて！ちょっと考えただけでも難しい。つい「それは違う」と言っちゃいそうです。

そんな自分の価値観を押し付けちゃいそうな私の心を見抜いたかのように、ロジャーズは次のように述べています。

「人には成長に向うための資源や回復するための能力が潜在的に備わっており、その人がどうしたいのか、どう在りたいのか、というのはその人自身が一番知っている」

大変深い洞察です。

とはいえ、相手の立場に立つことは、とても難しい。翻って、あいさつは、相手があって初めて成り立つ活動。あいさつをすることによって、相手への無条件の関心を表現しているようなものです。関心をもたれて、気持ちがよくならないわけはない。そうか、あいさつは、その難しいコミュニケーションの入り口に立つ大切な活動であることが分かります。

コミュニティーの中で学ぶ学校教育において、その入り口にあたるあいさつが大切。と、そんな小難しいことを言わなくても、あいさつが大事だって分かってますって、と子どもたちの声が聞こえてきそうです。